



Beyond KUSS , 2024 !!



11月が終わり、12月に向かいます

今日は11月30日(木)、明日は12月1日(金)です。12月1日(金)を最後に、10回生の中等教育学校の平常授業は終了します。来週の5日間は最後の定期考査、再来週以降は共通テスト対策問題演習になります。確実に季節も秋から冬に向かっていきます。10回生の受験もいよいよ本番が近づいています。

焦らず、慌てず、12月4日(月)からの秋学期中間考査に臨みましょう。

国公立大学入学者選抜状況

文部科学省は毎年「国公立大学入学者選抜の概要」を公表しています。10回生が受験する2024年入試と20年前の2004年入試を比較すると違いがわかります。

日程別の募集定員を右表にまとめました。「特別」は総合型選抜(AO入試)、学校推薦型選抜(推薦入試)の合計になります。公立の独自日程418名は上表には含みません。また、その他の入試区分で実施する国立227名、公立136名も含みません。

区分	令和6(2024)年入試			平成16(2004)年入試		
	国立	公立	国公立	国立	公立	国公立
定員	95,241	33,658	128,899	97,676	22,537	120,213
前期	63,338	16,766	80,104	62,835	11,973	74,808
後期	12,600	3,348	15,948	21,710	3,529	25,239
中期		2,395	2,395		1,998	1,998
特別	19,076	10,595	29,671			18,249

公立の独自日程418名は上表には含みません。また、その他の入試区分で実施する国立227名、公立136名も含みません。

国立大学の総定員は減少していますが、前期日程の募集定員は増加しています。後期日程の募集定員は20年前よりも4割以上減少しています。その多くが特別選抜の募集定員となり、一部が前期日程の募集定員となっています。

公立大学は73校から97校へと3割以上増加しています。募集定員も5割程度増加しています。国公立大学全体の募集定員増加分の多くが公立大学です。また、公立大学は新設されるだけでなく、私立大学から公立大学に転換する大学もあります。

国立大学のうち約20%、公立大学のうち約31%、国公立大学のうち約23%が特別選抜の募集定員です。国公立大学の特別選抜では募集定員どおり合格発表が行われるわけではありません。募集定員を下回る場合もよくあります。その不足分は、前期日程で充足する(前期日程の募集定員の実質増)ことが一般的です。

2024年入試の国立大学のみ特別選抜の募集定員は、2004年入試の国公立大学を合わせた募集定員を上回っています。公立大学は募集定員の30%以上を特別選抜で募集しています。国立大学の特別選抜の募集定員は20年前の後期日程に迫る勢いがあります。なぜ、このような状況になってきたのでしょうか。

後期日程で入学する学生の多くが、残念ながら「第1志望」ではありません。学生の一定程度が大学での学びを充実させることができないまま過ごしています。大学での学びを充実させる学生の入学を期待し、後期日程から特別選抜への移行が進んでいると考えられます。この動きは、東京、京都という難関大学で顕著です。

「第1志望」突破に向けて、体調管理に気を配り、日々の学習に全力を尽くしましょう。

★ 一般選抜出願用「調査書発行申込用紙」提出締切

私立大学 12月1日(金)17時

国公立大学 12月22日(金)17時

<保護者の方々にも読んでいただきましょう>

『Beyond KUSS , 2024 !』など進路課が発信する情報の一部をHPに掲載しています。